

# NEWSLETTER

インド・ウッタラカンド州山地災害対策プロジェクト (TCP)

## 合同調整委員会の内容

### ■開催日

2019年12月12日

### ■議事内容

1. モデルサイト工事施工業者の選抜審査について
2. バリヤナラ崩壊地への対応について

### ■モデルサイト工事内容

#### ニルガード (Nirgad)

保全区域は3haで渓間工がメイン。3基の鋼製枠工、かご枠工、水路工、種子の吹付工等を施工予定。

#### ジャワディ (Jawadi)

保全区域は傾斜30~40°の8haで山腹工がメイン。のり枠工、擁壁工、流路工、のり切工、緑化工等を施工予定。

#### パドリ (Padli)

保全区域は傾斜50°超の5ha。山腹工として、のり枠工擁壁工、ロックボルト工、流路工、緑化工が施工予定。国道の190m上部での工事施工となるため、安全確保のため、道路の移設工事も実施予定。

## 第4回 合同調整委員会の開催



首席次官の会議室にて

2019年12月12日に、ウッパル・クマール・シン首席次官を議長に迎えて、第4回合同調整委員会\*1 (JCC: Joint Coordinating Committee) が開催されました。

プロジェクト・ダイレクターのアヌプ・マリック氏より、本年2月の第3回JCC開催以降のプロジェクトの進捗状況を説明した後、入札の結果、請負業者としてBumi JVが選抜されたことを報告し、了承されました。

会議においては、2022年3月までの当プロジェクト期間中に全工事が完了できる見込みなのか、工事施工管理への日本人専門家の技術的支援が確保できるのかなど、工事着工を前にした確認と議論が行われました。首席次官からは、前回JCCでも議論されたとおり、公共事業局や灌漑局のエンジニアを当プロジェクトへ送り、斜面安定に関する技術や施工管理に関する知識を共有できるようにすべきとの提案がありました。

バリヤナラ崩壊地についても議題にあがり、非常に重要な課題であるとの認識の元、当プロジェクトの実施期間中に可能な技術支援について確認されました。

## 2019年度の本邦研修

### ■期間

2019年11月6日～23日（18日間）

### ■研修生

ウッタラカンド州森林局および環境・森林・気候変動省の職員、UFRMPエンジニアの計10名

### ■研修受け入れ先

林野庁、森林総合研究所、大井川治山センター、近畿中国森林管理局管内（奈良森林管理事務所、和歌山森林管理署）、兵庫県六甲治山事務所

## 2019年度の研修実施



森林総合研究所内実験施設の見学

2019年11月に今回が三回目で最終となる本邦研修<sup>\*2</sup>を開催しました。研修生一行は林野庁の訪問に始まり、同庁および森林総合研究所で講義を受けました。

その後、静岡県、奈良県、和歌山県で林野庁が実施している直轄治山事業の各施工現場を見学し、実際の構造物を見て、担当職員からの説明を受け、設置された各工種の意義と役割について理解しました。

神戸市内へ移動した一行は、（株）山地防災研究所の櫻井正明氏を講師に迎え、1日の現場見学を挟んで全行程4日間の講義を受けました。講義では治山技術の基礎から、溪間工・山腹工、設計及び安全管理について丁寧な説明がなされ、活発な質疑応答がありました。六甲治山事務所管内では約100年前の治山工事箇所を視察し、成林した現在と比較することで治山事業の意義について理解を深めました。

全行程を通して、研修生の前向きな参加姿勢と受け入れていただいた機関の協力のおかげで、非常に有意義な研修になりました。この生きた経験を、今後のプロジェクトにおける工事への取り組み姿勢・施工管理に役立てていきます。



ドローンのデモ飛行  
(2019.11.12 静岡県大井川地区)



ボーリングコアのサンプル  
(2019.11.14 奈良県十津川地区)



写真左：六甲治山事業所管内

写真右：和歌山県紀伊田辺地区